

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-196881  
 (43)Date of publication of application : 14.07.2000

(51)Int.Cl. H04N 1/401  
 H04N 1/19  
 H04N 1/409

(21)Application number : 10-374075  
 (22)Date of filing : 28.12.1998

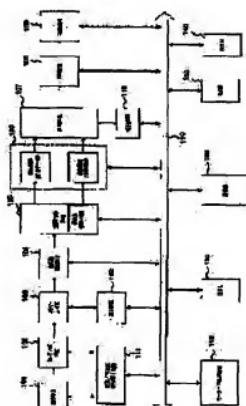
(71)Applicant : RICOH CO LTD  
 (72)Inventor : NAMITSUKA YOSHIYUKI

## (54) IMAGE PROCESSOR

### (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide an image processor which optimizes read correction with an SDF and that with a press plate, independently of each other and can suitably reproduce an output image of a copy and the binary image of FAX.

**SOLUTION:** In this image processor, which is provided with a first read mode using the SDF and a second read mode, using the press plate and reads a document in either mode and converts read image information to a digitally converted image signal and processes the digitally converted image signal into an image signal which can be outputted as an apparent image, a press plate/ background plate switching control part 111, which switches the read position by two modes for optimizing read correction in the first read mode and the second mode independently of each other, a shading correction part 102 which performs most suitable shading correction in accordance with two modes, and a stripe correction part 112 which switches black strip correction and white stripe correction according to two modes to perform stripe correction are provided.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 17.01.2003

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 08.11.2005

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

(19)日本国特許庁 (J P)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-196881

(P2000-196881A)

(43)公開日 平成12年7月14日(2000.7.14)

(51)Int.Cl.  
H 04 N 1/401  
1/19  
1/409

識別記号

F 1  
H 04 N 1/40  
1/04  
1/40

データ+<sup>1</sup>(参考)  
1 0 1 A 5 C 0 7 2  
1 0 3 E 5 C 0 7 7  
1 0 1 C

(21)出願番号 特願平10-374075

(22)出願日 平成10年12月28日(1998.12.28)

(71)出願人 000006747

株式会社リコー  
東京都大田区中馬込1丁目3番6号

(72)発明者 波翠 義幸  
東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式  
会社リコー内

(74)代理人 100078134  
弁理士 武 雄次郎 (外2名)

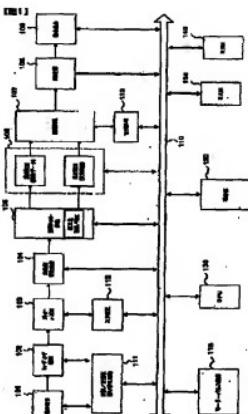
Fターム(参考) S072 AA01 BA08 CA12 EA05 FB12  
FB13 FB16 LA18 RA16 UA02  
5C077 LL01 MM03 MM27 MP01 MP04  
NP01 PP05 PP06 PP07 PP54  
PQ08 PQ23 RR09

## (54)【発明の名称】 画像処理装置

## (57)【要約】

【課題】 SDFでの読み取り補正の最適化と圧板での読み取り補正の最適化を独立に行い、コピーの出力画像も、FAXの2倍画像も最適再現可能な画像処理装置を提供する。

【解決手段】 SDFを使用した第1の読み取りモードと圧板を使用した第2の読み取りモードとを備え、いずれかのモードで原稿を読み取り、読み取った画像情報をデジタル変換された画像信号に変換し、デジタル変換された画像信号を階調として出力可能な画像信号になるように処理する画像処理装置において、前記第1の読み取りモードと第2の読み取りモードとでそれぞれ読み取り補正の最適化を独立して行うため、前記2つのモードによって読み取り位置を切り替える圧板、背景板切り替え制御部111と、前記2つのモードに応じて最適なシェーディング補正を行わせるシェーディング補正部102と、前記2つのモードに応じて黒スジ補正及び白スジ補正を切り替えてスジ補正を行なうスジ補正部112とを設けた。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 シートスルー・ドキュメント・フィーダーを使用した第1の読み取りモードと圧板を使用した第2の読み取りモードとを備え、いずれかのモードで原稿を読み取り、読み取った顔写真情報をデジタル変換された画像信号に変換し、デジタル変換された画像信号を顔像として出力可能な画像信号になるように処理する画像処理装置において、前記第1の読み取りモードと第2の読み取りモードとでそれぞれ読み取り補正の最適化を独立して行う画像処理手段を備えていることを特徴とする画像処理装置。

【請求項2】 前記画像処理手段は、前記第1の読み取りモードと第2の読み取りモードとによって読み取り位置を切り替える読み取り位置切り替え手段と、前記2つのモードに応じて最適なシェーディング補正を行わせる制御手段と、

前記2つのモードに応じて黒スジ補正及び白スジ補正を切り換えてスジ補正を行うスジ補正手段と、を備えていることを特徴とする請求項1記載の画像処理装置。

【請求項3】 前記第1の読み取りモードと第2の読み取りモードとに応じてシェーディングデータを切り替える手段と、前記2つのモードに応じてシェーディング生成間隔を切り替える手段と、

前記2つのモードに応じてランプ点灯時間を制御する手段と、を備えていることを特徴とする請求項2記載の画像処理装置。

【請求項4】 第1の読み取りモードで原稿を読み取るときに黒スジ補正を行う手段と、シェーディング補正を行う際に使用するシェーディングデータの生成時に白スジ補正を行なう手段と、白スジ検出のための設定値を前記第1の読み取りモードと第2の読み取りモードとに応じて任意に設定する手段とを備えていることを特徴とする請求項2記載の画像処理装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はデジタル画像装置に係り、特にスキャナーから画像を読み込み転写紙に画像を再生する装置に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 MFP(コピー、FAX等の複合機)において、コピー用の多種処理とFAX用の2種処理を区別し、平行動作及びそれぞれの画像処理を最適化する『画像処理装置』(特開平8-274986)等が発明されている。主に400dpiのシステムにおいて高画質を維持している。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら上記発明において、2種と多種の回路構成の共通化はなされておらず、更にコピー用の画像補正とFAX用画像補正で、

画像取り込み装置の特性を考慮されていなかった。システムの価格からコピーでは圧板での読み取りが主体で、FAXではシートスルー・ドキュメント・フィーダー(以下、「SDF」と略称する。)での読み取りが主体となる。

【0004】 本発明は、斯かる点に鑑みてなされたもので、その目的は、簡便性及び低コスト再現性を低成本の装置で実現し、読み取り装置の構成の違いを吸収することにある。特にSDFでの読み取り補正の最適化と圧板での読み取り補正の最適化を独立に行い、コピーの出力画像も、FAXの2種画像も最適再現可能な画像処理装置を提供することにある。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するため、第1の手段は、SDFを使用した第1の読み取りモードと圧板を使用した第2の読み取りモードとを備え、いずれかのモードで原稿を読み取り、読み取った画像情報をデジタル変換された画像信号に変換し、デジタル変換された画像信号を顔像として出力可能な画像信号になるように処理する画像処理装置において、前記第1の読み取りモードと第2の読み取りモードとでそれぞれ読み取り補正の最適化を独立して行う画像処理手段を備えていることを特徴とする。

【0006】 第2の手段は、第1の手段において、前記画像処理手段が、前記第1読み取りモードと第2の読み取りモードとによって読み取り位置を切り替える読み取り位置切り替え手段と、前記2つのモードに応じて最適なシェーディング補正を行わせる制御手段と、前記2つのモードに応じて黒スジ補正及び白スジ補正を切り替えてスジ補正を行なうスジ補正手段とを備えていることを特徴とする。

【0007】 第3の手段は、第2の手段において、前記第1の読み取りモードと第2の読み取りモードとに応じてシェーディング補正データを切り替える手段と、前記2つのモードに応じてランプ点灯時間の設定値を前記2つのモードとに応じて任意に設定する手段とを備えていることを特徴とする。

【0008】 第4の手段は、第2の手段において、第1の読み取りモードで原稿を読み取るときに黒スジ補正を行なう手段と、シェーディング補正を行なう際に使用するシェーディングデータの生成時に白スジ補正を行なう手段と、白スジ検出のための設定値を前記第1のモードと第2のモードとに応じて任意に設定する手段とを備えていることを特徴とする。

## 【0009】

【発明の実施の形態】 以下、本発明の実施形態について図面を参照しながら説明する。図1は本実施形態による画像処理装置の構成を示す機能ブロックである。

【0010】 本実施形態に係る画像処理装置は、原稿を光学的に読み取る読み取り部101、シェーディング補

正部102、スキナヤ補正部103、主走査電気変倍部104、空間フィルタ処理部105、温度補正部106、階調処理部107、PMW変調部108、書き込み部109、トリクスRAM119、操作部120、CPU130、ROM140、RAM150、圧板／背景板切り替え制御部111、スジ補正部112、及びモータパルス制御部113を備えている。

【0011】読み取り部101は、ここでは原稿濃度を光源の反射光として読み取り、CCD等の撮像素子により電気信号に変換する。更にアナログ信号はデジタル信号に変換する。デジタル信号変換後の電気系に対し、シェーディング補正部102において光源、光学系の濃度ムラに関する補正を行う。ここでは原稿読み取り前に、あらかじめ濃度基準となる白板を読んでおき、この読み取り信号をモリに格納しておく。主走査方向の各読み取り位置に対し、ドット単位で基準データと読み取りデータの間で補正処理を行う。シェーディング補正後のデジタル信号に反射率に関しリニアな特性となっている。これを原稿濃度に関しリニアな特性に変換する。この変換は、あらかじめスキナヤの読み取り特性を測定しておき、その逆特性なる変換テーブルをRAMにダウンロードしておく。スキナヤ補正部103において濃度リニアなデータに変換する。スキナヤ補正部103においては濃度リニアな変換以外にも、低濃度部を強調したり、逆にレベルを落としたりして補正効果を高める。

【0012】読み取り部101並びにシェーディング補正部102は圧板読み取り、SDF読み取りに応じて原稿読み取り位置、データ補正量を切り替え、読み取り系の構成に応じて変更する。読み取ったデータに關して、圧板読み取り時はシェーディングデータに関する白スジ補正を、SDFに関してはシェーディングデータに関する白スジ補正の後、入力画像に關しては黒スジ補正を行う。なお、圧板読み取りの切り替えは、圧板／背景板切り替え制御部111で行い、白スジや黒スジの補正是スジ補正部112で行う。

【0013】階調処理とは直接的な関係はないが、主走査方向の電気変倍処理が主走査電気変倍部104で実行できるようにこの画像処理装置で構成されている。主走査電気変倍部104では、CCDでの読み取り1ライン単位で拡大、縮小を行う。この場合、コンポリューション法を使うことで、読み取り光学系でのMTFを保持したまま変倍処理を行い、画像データの解像力を維持する。幅走査方向に關しては機械的な制御により変倍処理を行う。なお、コンポリューション法は公知の技術なので、ここでの説明は割愛する。

【0014】空間フィルタ処理部105において階調処理のための前処理及び降噪量を抽出する。MTFの補正、平滑処理、エッジ検出の検出、変動閾値の設定等を主な機能として備える。この処理をジョギュールの出力はフ

ィルタ処理された画像データと周辺条件から算出された2値化のための変動閾値である。

【0015】空間フィルタ処理されたデータは温度補正部106に入力される。温度補正部106では、画像データ、変動閾値に對しそれぞれ濃度補正を連動して行う。この濃度補正部106は書き込み系のア補正及び濃度ノッチに対する再生濃度の変換を行うブロックであり、RAMから構成され任意の変換データをダウンロードできる。画像データ及び変動閾値用に同一のデータをダウンロードする形が基本ではあるが、階調特性を意図的に変化させる為に異なるデータを用いる場合もある。

【0016】温度補正されたデータは階調処理部107において書き込み系の特性に変換すべく、1画素当たりの濃度データを面積階調に変換する。単純多値化、2値化、ディザ処理、誤差拡散処理、位相制御等から構成され、面積階調への変換はある領域内で量子化階調を分散させる。階調の分散はトリクスRAM119に任意の値をダウンロードし、処理モードに応じてRAMアクセス手段を切り替え、適切な量子化を選択する。

【0017】階調処理されたデータはPMW変調部108において、書き込みレーザーのためのパルス幅制御を行う。階調処理部107において位相制御はPMW変調と連動させ、ドットの集約と分散を滑らかに実現し階調再現を行う。

【0018】PMW変調部108でPMW変調された画像データは書き込み部109においてレーザーによる感光体への作像、転写、定着処理により転写紙に画像を再現する。この書き込み部109の構成はレーザプリントとしての公知の構成なので、ここでの説明は省略する。なお、ここではレーザープリントを書き込み系として示しているが、インクジェット等の複数方式ではPMW変調ブロック以下構成が異なるだけ、ドット再現のための位相制御までは共通なアプローチとして展開できる。

【0019】階調処理部107における階調処理の設定、濃度補正の切り替え等は操作部120からの操作モードに連動する。絶柄主体の原稿、文字主体の原稿等で処理モードを選択し、薄い原稿、濃い原稿に応じて濃度補正のパラメータも設定を変更する。実際のシステム制御は操作モードからの設定に対して、CPU130を介してシステムバス110経由でRAMへの設定値、処理バスの経路をそれぞれの機能ブロックに対し設定する。また、読み取りのためのキャリッジ移動制御は、モーターパルスのカウント数を读出し、モータパルス制御部113でスキナヤ走行体の移動量を調整する。

【0020】なお、ROM140はCPU130の制御プログラムを始めとするスタティックなデータが格納され、RAM150はCPU130のデータエリアとして機能するとともに、CPU130の処理に使用するデータが格納される。

【0021】図2にスキナヤ補正部103と濃度補正

部106の概要を示す。図図(a)がスキヤナ補正、同図(b)が温度補正の変換テーブルを示す。図2(a)の(1)の混在特性は原稿温度に対するシェーディング補正後の画像データとの変換特性を示すもので、リニアな特性にはなっていない。低温度部では急激に立ち上がり高温度部では電気信号上昇してしている。一般的に $E \propto p$ ( $\gamma$ )の特性となる。これを温度リニア化信号に変化させるために同図(2)に示す、 $E \propto p$ ( $1/\gamma$ )の変換特性を乗じて温度リニアな空間に信号を変換する。これにより温度信号のダイナミックレンジが増加する。

【0022】図2(b)の出力温度補正是書き込み系のプロセル反応に対する $\gamma$ 特性を補正し、さらに濃度変更を実施するための変換テーブルをRAMにダウンドロードし、特性値を乗算する。具体的にはルックアップテーブルとしてデータを参照し、置き換える。図2(b)では曲線の上に凸は低温度部を再現させ、下に凸は地刷に相当する低温度部を飛ばす特性を示す。モード、温度ノッチとの兼ね合いでデータは任意の値を設定できる。

【0023】温度再現性、階調再現性の自由度を与えるために変換パラメータはRAMへのダウンドロードで任意性を持たせる。対象となるRAMはスキヤナ補正、画像データに関する温度補正、変調閾値に対する温度補正、ディザイ及ぼ差誤散処理のための量子化閾値の設定に関しては、CPU130からのデータダウンドロードとルックアップテーブルの切り替え手段は共通である。

【0024】図3にRAM301へのCPU130からのアクセス及びテーブル参照の切り替えの機能構成を示す。RAMサイズは任意に設定可能であり、アドレス空間は入力画像の1画素当たりの階調数だけなければならない。例えばCCDデータを8bitでA/D変換するシステムであれば、アドレス空間は8bitとなる。

【0025】RAM301へのアドレスに対し、データダウンドロードのためのCPU130からのアドレスバスをマルチブレクサ302を介して接続し、RAM301のデータ入力端子はCPU130からのデータを書き込む。RAM301はwriteモードにて参照データをダウンドロードする。本実施形態においてはクロック(CLK)同期の同期式RAMの例を示しているが、非同期式RAMにおいてもCPUモードとデータ参照モードの切り替え方式は同じである。

【0026】通常の画像処理モードでは、RAM1301へのアドレッサ端子へは被変換入力画像を接続し、RAM301はreadモードにて設定する。これにより入力データに対応する番地に格納されている、変換テーブル値がRAM301の出力として算出される。RAM301での構成により回路構成、演算処理時間が軽減でき、データの任意性確保できる。なお、READ/WRITEの指示はマルチブレクサ303を介してイネーブル端

子に入力される。

【0027】図5に温度補正部106及び階調処理部107の機能構成を示す。ルックアップテーブルとしての参照RAMは3個有り、RAM(1)551、RAM(2)552、RAM(3)553で示している。RAM(1)551は変調閾値に対する温度変換用 $\gamma$ 補正テーブル、RAM(2)552は画像データに対する温度変換用 $\gamma$ 補正テーブル、RAM(3)553はディザイ及ぼ差誤散閾値マトリクスRAMである。

【0028】2値処理用のバスと多値処理用のバスを構成し、単純2値化処理に関しては更に2値化処理部501、先端色素制御処理部502及びバイナリフィルタ処理部503の各画像処理部で各処理を実行し、2値選択部511で2値を選択した上でさらに、選択部513から2値信号が送出される。ディザイ及ぼ差誤散処理部は2値、多値とも共通の回路、すなわち、2値/多値/多値ディザイ処理部504及び2値/多値差誤散処理部505で実施する。RAM(3)553のデータ内容、アドレス、アクセス制御を選択部510が切り替えて前記ディザイ処理部504及び誤差誤散処理部505の2値/多値の処理を切り替える。

【0029】多値レベル変換処理部506及び多値誤差誤散処理部505の各処理に関しては濃度処理と合わせて主走査方向前の濃度分布によって、ドット形成のための位相情報を位相制御部507、508を付加する。例えば3色化の場合、信号レベルは2bitを割り当て、「00」、「01」、「10」、「11」の状態を設定できる。通常これは4色化であるが、「00」を白、「11」を黒に設定し、「01」、「10」ともPWMでのパルス幅を50%デューティとすれば、濃度レベルとしては3値となる。同じ50%デューティでも「01」は右位相でドット形成領域内の右半分でレーザを点灯させる。「10」は左位相でドット形成領域内の左半分でレーザを点灯させる。PWM駆動ブロック108との連動で以上のように位相と濃度を定義し、処理を取り決める。

【0030】多値ディザイの3次化においても、同様のパルスコード発生させる。これに関しては図7に示す。また、多値処理に関しては主走査方向の簡易エッジ検出を簡易エッジ検出部514において行い、単純多値と多値誤差誤散処理部を組み分エッジ情報により選択部509でセレクトする。

【0031】図6にRAM(3)553をアドレス空間8bitで構成した場合に2値ディザイマトリクスのダウンドロードで使用する場合の状況を示す。2値ディザイマトリクスサイズとしては主走査方向4、6、8、16画素、副走査方向4、6、8、16画素を任意の組み合わせで設定可能である。必要絞数、画素のライン間引き等の状態に応じて組み合わせ及びターンデータを2値選択部511で選択する。RAM(3)553のアクセス

は操作を簡便化する目的で、シーケンシャルなアクセスではなく、2次元配列に基いてシークする。制御上構成が簡単である。

【0032】図7はRAM(3)553を多値ディザトリックス用にアクセスする内容を示す図で、多値ディザ用にマトリクスサイズ $4 \times 4$ (図7(a))、 $6 \times 6$ (図7(b))、 $8 \times 8$ (図7(c))、1面素あたり3値化の状態を示す。マトリクスサイズのアクセスは2次元配列とするが、主走査方向のアドレス数は2倍の数を必要とする。図7(a)の $4 \times 4$ のマトリクスにおいて、主走査方向は各面素2アドレスを割り当て、8アドレス参照する。Aの面素は内部的にA0とA1の閾値を参照する。これによりそれぞれのマトリクス対応面素は2個の閾値と比較演算を行う。左バ尔斯の場合、A0< A1の大小関係からなる閾値を設定し、右バ尔斯の場合その逆に、A0> A1の関係で閾値を設定する。Aの位置の面素がA0及びA1より小さければ量子化結果として「0」が割り当たられ、A0及びA1より何れよりも大きい場合は「1」のコードをバ尔斯領域全區間にわたるレーザー点灯時間として割り当てる。A0とA1の間に被量子化面素がある場合、右バ尔斯(右位相)と左バ尔斯(左位相)で割り当たるコードが異なる。右バ尔斯系列を割り振られている場合「01」を、左バ尔斯系列を割り振られている場合「10」をそれぞれ量子化コードとする。図7(a)の残りのマトリクス画素及び図7(b)、(c)においても同様の定義でバ尔斯コードを生成する。基本的には位相生成を考えて、閾値配列をRAMにダウンロードする事で実現する。

【0033】図8に2種及び多値誤差拡散処理の処理構成を示す。この処理構成は、加算演算部801、量子化選択部802、誤差演算部803、誤差演算部804、誤差重み付け積和部805、RAM(3)553(変動閾値格納部806)とから構成される。入力画像と周辺誤差との積和結果に対する量子化閾値を固定値と変動閾値から選択する。固定値と変動閾値の切り替えについては図4に示す。

【0034】変動閾値を使用する場合、RAM(3)553に成るブロック単位で繰り返す閾値を設定する。図8(b)は2種の場合の $8 \times 8$ のマトリクスの変動閾値の閾値設定の一例を示す。閾値をブロック内で変動させることでテクスチャは低減される。また $8 \times 8$ のマトリクス領域で閾値の固定値と変動値を混在させる事で、エッジの保存と階調再現性のバランスを調整できる。

【0035】多値の場合は、対応マトリクスの1面素に対し、閾値を抜取せた後量子化コードを変更する。位相に関しては別途、主走査方向の変動濃度分布の状態で再配置する。長さ積と誤差に関しては、1ライン1FOを用いた2ライン $\times$ 5面素の係数を示してあるが、これは単なる一例過ぎず、マトリクスサイズ、係数分布は変更は可能である。

【0036】図4に量子化のための閾値の変動閾値、固定閾値の切り替え構成を示す。モードの設定により、システムバス110経由で閾値の切り替えを行い、選択部401で変動閾値あるいは固定閾値のいずれかが選択される。変動閾値に関しては換算値の場合はRAM

(3)553への設定値を主走査及び副走査方向のアドレス制御及び多値化のレベルで参照する閾値を制御する。単純2値化の場合は空間フィルタ部105で設定され、濃度補正された閾値を用いる。固定閾値はハード的に固定された値ではなく、CPU140経由でレジスタにセッティングされた値を固定値として使用し、固定値自体もモード、画像特性によって変更可能である。このように選択された閾値を用いて比較部402で入力画像データと比較し、その比較結果が出力される。

【0037】図9に空間フィルタ処理部105の概要を示す。空間フィルタ処理部105では、複数のラインメモリ901を用いて、2次元の画像マトリクス902を形成し、この2次元空間内で画像の層次特性的補正及び濃度特性からの特微量抽出を行う。

【0038】MTF補正部903は光学系でのMTF劣化を補正するため、主走査及び副走査独立にMTF補正係数、補正強度を自由設定できる構成とし、処理モード、読み取り原稿、光学系の種類に応じて適応できるものとなっている。孤立点検出部904は、ジェネレーション劣化が予想される地肌ノイズ、原稿ノイズを検出する。画素配置の規則性を検出し完全な孤立点であるか、低濃度の網目原稿の一部であるか判別し、対象となる画素を記憶する。孤立点検出部904においては、検出された孤立点を完全に取り去るのではなく、周辺面素の平均値で置き換えるか選択可能とし、ノイズ部分は削除する。細線化/太線化処理部905は主走査方向副走査方向独立に実施し、MTFの補正係数と運動させて、ライン濃度再現性の主弱のバランスを調整する。

【0039】平滑処理部907は網目原稿とA/D変換時の折り返し歪みにより発生するモザイク成分の除去と、変動閾値設定のための周囲情報を抽出する。エッジ検出部908は水平、垂直、左右斜め成分のエッジ線分を検出し、フィルタ処理適応化のための切り替え信号及び変動閾値選択のための制御信号を生成する。セレクタ909でエッジ構成要素はMTF補正されたビデオバスを、非エッジ成分は平滑処理されたビデオバスをセレクトしフィルタ補正画像が選択される。

【0040】単純2値化のための変動閾値設定は、平滑画像信号、エッジ信号等により各面素毎に変動閾値設定部910で閾値をセットする。

【0041】図10に閾値設定部910における閾値セットの概要を示す。閾値設定部910はレベル判定部1001とセレクタ1002とを備え、レベル判定部1001で、平滑処理された画像信号に対してレジスタ設定されている上限値及び下限値と比較する。ノイズ及び

濃度安定領域での使用のため、それぞれの制限値で平滑信号は規定する。下限値以下の場合は下限値で、上限値以上の場合は上限値で、それぞれの平滑化信号を置き換える。両制限値の間に存在する信号は、そのまま平滑化信号を用いる。

【0042】セレクタ1002では、エッジ信号によりレジスタにより設定される固定値を用いるか平滑処理系の信号を用いるかを選択する。地肌濃度に従事させる完全な変動閾値の場合、非エッジ部は固定閾値にエッジ部は平滑処理系信号を変動閾値として設定する。高濃度のエッジと低濃度のエッジを上昇・現れる場合、2段階の閾値を設定する。この場合はエッジ部を固定値、非エッジ部を平滑処理系の信号に設定する。基本的に固定式値が高濃度エッジのための2種類、平滑データに対する下限設定値が低濃度のエッジのための2種類閾値として機能する。

【0043】図11に孤立点検出の概要を示す。孤立点検出はマトリクス選択部1101、比較部1102、状態遷移部1103、及び判定部1104の各機能ブロックによって行われる。マトリクス選択部1101では周囲からの孤立の状態を検出するため、 $5 \times 5$ もしくは $7 \times 7$ もしくは $9 \times 9$ の画像マスクの中心で注目画素(マトリクスの中心)画素と最外端の画素とが完全に分離されている場合孤立点とみなす。等倍時は $7 \times 7$ のマトリクスサイズを用い、最大 $4 \times 4$ の大きさまでの孤立点を検出できる。縮小の場合は孤立点画素及び周辺画素との間隔も縮小されるので、 $4 \times 4$ の孤立点画素を50%縮小で検出するためには $5 \times 5$ のマトリクスサイズで画素サイズ $2 \times 2$ の周りを読み出すれば良い。逆に200%以上の拡大の場合には、原画面上の $4 \times 4$ の孤立点画素も拡大され、 $9 \times 9$ のマトリクスサイズまで拡張しないと検出できなくなり、拡大時に孤立点が残ってしまう。実験率に運動させ $kmtf$ の値を変更する事で、孤立点検出のためのマトリクスサイズを切り替える。

【0044】 $5 \times 5$ や $9 \times 9$ のマトリクスサイズ内の周囲画素の条件による孤立点検出では原画中の有用な情報である低濃度のディザイバーンも削除してしまう。この不具合を解消するために、比較部1102において $kmtf$ の閾値との比較による制約、及び状態遷移部1103において状態遷移による制約を加え本当の孤立点のみを検出する。着目画素が白地または孤立点か否かをT1の値で示す。白地または孤立点の場合T1=1、そうでない場合はT1=0となる。閾値判定では着目画素が白画素か否かをT2で示す。閾値より小さい場合T2=1で白地を示し、閾値以上の場合はT2=0で非白地を示す。このT2により白地と孤立点を区別する。

【0045】状態遷移の判定はT1、T2とこれらから連続する白画素数、孤立点のサイズをそれぞれ白画素数計数部1105及び孤立点サイズ計数部1106でカウントし、状態遷移のための条件とする。画素の状態は

`state`の値で示すが、底面的な着目画素は白画素が広く連続している領域であるPAPER、もしくは着目画素が孤立点であるDOT、もしくは着目画素が絞り、文字または低濃度網点部または白画素が広く連続していない領域であるPICTの間を遷移する。状態はPAPERから始まる。

【0046】図12に検出された孤立点の補正処理を示す。孤立点の検出結果は`result`で示され、MTF補正後の画像データ`mtfo`に対し、補正処理を行う。この`mtfo`は強調処理されており、孤立点は增强されており、このままの処理を複数回繰り返す(黒コピーや取る)とジェネレーションは悪化し、黒のボチボチが目立つ低品質な出力となってしまう。

【0047】孤立点に関してはMTF強調はせず、周辺と平滑処理するか、白レベルに置き換える。選択部1201では`kmod`により孤立点除去の処理のON/OFFを切り替えて出しし、強度演算部1202で処理する場所の補正レベルを`kt1`で切り替える。この場合は強制的な白レベルへの変換を除去強度を最大とし、`mtfo`の1/32、1/8、1/2と補正レベルを弱めていく。

【0048】図13にシェーディング補正部102、スキヤナ補正部103、スジ補正部112等のスキヤナ読み取り画像の補正手段系の詳細を示す。シェーディング補正是シェーディングデータ生成部1301におけるシェーディングデータの生成とシェーディング補正部1305における入力画像のシェーディングデータによる正規化の2つの処理によって行われる。シェーディングデータはシェーディング用白基準データ生成部1301で基準白板1606、1611(図16)の読み取り信号から生成するが、SDFと圧板によって読み取る基準白板1606、1611を切り替える。この切り替えは前述のように圧板/背景板切り替え部111によって行われる。圧板の場合、キャリッジがホームポジションからスタートし、コンタクトガラス1605(図16)で記載された原稿を読み前にコンタクトガラス上端部で設定されている白板1606を読み取り、シェーディング補正用の基準データを算出する。

【0049】SDFの場合、コンタクトガラス1605面の基準白板1606とドキュメント・フィーダの背景板1609を読み取るモードの2種類が選択可能である。背景板1609の場合は読み取り位置にキャリッジを移動し、原稿が搬送される前に背景板1609に貼り付けられている白板1611の状態を透過ガラス面を通して読み取る。この場合、キャリッジの移動はホームポジションから1回だけの移動となる。SDF使用時のコンタクトガラス上の白板読み取りは、ホームポジションから白板下までキャリッジを移動させ、そこからドキュメント・フィーダ読み取り位置までキャリッジを逆戻りさせる必要がある。そのため、読み取り原稿が複数枚達

続する場合、キャリッジを頻繁に往復運動させなければならぬ。背景板1609の場合、キャリッジの往復運動は必要ない。基本的にSDFの場合、DFの背景板1609を標準白板1611として利用する。

【0051】シェーディングデータの生成は標準白板1606、1611を複数ライン読み取り重加算平均を行う。背景板1609の場合、同一場所を複数回読み込むことになるが、ランプの動乱、埃の散乱等により毎ライン読み取りデータのレベルは異なってくる。

【0051】ライインメモリ1302に格納した白基準データに關し、ゴミ等の影響により白レベルがあまりにも異なる場合、そのままシェーディング補正を行なう画像の白黒反転も同時にを行うので白黒画像が発生してしまう。標準白板上の不正常素は白スジ検出部1303で白スジ要因を検出し、周辺の正常画素から白スジ補正部1304で標準白板データを補正し、ライインメモリ1302に再度格納する。

【0052】圧板による原稿読み取り、SDFの背景板1609によるシェーディングデータ生成は、原稿読み取り毎に毎回基準データを作り直す。SDF及びコンタクトガラス1605面上の白板1606を使う場合、高速の機械ではキャリッジの移動が間に合わなくなる。高速であればランプ変動はあまりないものとして、原稿枚数に1回の精度をシェーディング生成を簡引く処理も組み合わせとして実施している。

【0053】SDFの場合、キャリッジを背景板1609の下に固定して、原稿を搬送させることによって画像を読み取る。圧板の場合は原稿をコンタクトガラス1605面に置き、キャリッジを移動させることで画像を読み取る。コンタクトガラス1605面にゴミがある場合、画像再生装置の出力としては入力と同一形状の点状の画像として再生される。

【0054】一方、SDFの場合、固定された観測点に点状のゴミがあつても、再生画像はスジ状に再現される。そのため異常画素の存在が疑われるなどの、SDFの場合は白スジ補正を実施する。そこで、シェーディングデータ生成後、原稿画像を読み取る前に、背景板1609の下の読み取り面を単独で読み取り、黒スジ検出部1306でゴミの有無を確認し、ゴミの検出された場所をシェーディングデータとは別のライインメモリ1307に格納し、原稿画像を読み込む時、黒スジ補正部1308でゴミの存在する位置の画像は周辺の正常画素から補正して、ゴミによる黒スジを軽減させる。ただし、誤検出、未補正の可能性があるものの、ある量のゴミ画像を検出した場合には、ゴミを取り除く警告も促す。

【0055】なお、ROM1311にはシェーディング補正部1305がシェーディング補正を行う場合に参照する補正テーブルが格納され、RAM1312にはスキヤナ補正部が特性を補正する際に参照する補正テーブルが格納されている。また、符号1313はシェーディング用白基準データ生成部1301からのデータのピクセルを検出し、また、オート露光モードを設定するピクセル検出・AEモード部である。また、符号1314はシェーディング用白基準データ生成部からのデータに基づいてランプ出力を自動的に調整する自動調整部である。

【0056】図14に異常画素の検出手段を示す。黒スジ／白スジとも異常画素の検出は同じである。信号論理の向きのみが逆であるので白スジ補正のための異常画素検出を示す。本来一様な濃度分布の標準白板を読み取ると、白色を示す信号レベルが検出される。そこにゴミが付着した場合、周辺画素に比べ信号レベルが周側に偏移する。レベル差を閾値で判別し、異常画素を分別する。

【0057】注目画素S(n)に対し、8種類のパラメータを設定し、各閾値と該当する検出信号を比較する。閾値は白スジとしての立ち上がり状態を検出する検出レベル(wu1vth)、隣接画素との立ち上がりの度合いを検出する閾値(wu1th, wu2th, wu3th)、立ち上がり状態を検出する検出レベル(wd1vth)、隣接画素との立ち上がりの度合いを検出する閾値(wd1th, wd2th, wd3th)とである。

【0058】白スジとしての異常画素の条件は、立ち上がりの条件もしくは立ち上がりの条件のどちらかに対応すれば良い。

【0059】立ち上がり条件は、S(n+1)がwu1vthより大きく、S(n+1)-S(n)がwu1thより大きいか、もしくはS(n+1)-S(n)がw u2thより大きく、かつS(n+2)-S(n)がw d3thより大きい場合、S(n)は立ち上がり途上の異常画素となる。

【0060】立ち下がり条件は、S(n)がwd1vthより大きく、S(n-1)-S(n)がwd1thより大きいか、もしくはS(n-1)-S(n)がwd2thより大きく、かつS(n-2)-S(n)がwd3thより大きい場合、S(n)は立ち下がり途上の異常画素となる。

【0061】本来の標準白板の信号レベルより明らかに低い画素を検出する。

【0062】検出画素に關しての補正手段を図15に示す。画素の並びをD(n-2)、D(n-1)、D(n)、D(n+1)、D(n+2)の5画素からなるものとし、D(n)が異常画素として検出された場合を示す。

【0063】入力信号の画素間のレベル推移を点線で示す。D(n)に関しては1画素だけの異常画素であったので、周辺画素において補正を行う。D(n-2)とD(n+2)の信号レベルを用いて、  

$$D(n-2) + ((D(n+2) - D(N-2)) \times 2) / 4$$
で補正值を算出する。

【0064】異常画素は1画素とは限らず、複数個連続する場合がある。その場合、異常画素（欠陥）画素の幅を補正して画像補正を行う。上記の1画素の欠陥画素の欠陥画素の場合（欠陥画素の幅+3）で正规化する。

【0065】一般式としては以下の補正式を当てはめる。

【0066】補正後のシェーディングデータ=<左参照画素>+(<右参照画素>-<左参照画素>)<x<左参照画素からの画素数>)/<(欠陥画素の幅)+3>r<sub>7</sub>

分母の欠陥画素幅の挙動は、欠陥画素が1の場合3、欠陥画素が2の場合は5、欠陥画素が3の場合は7となる。

【0067】図16に読み取り部の構造を示す。スキナナはランプ1601を走行させ、ライン毎に画像を入力しCCDに結像する。ランプ1601の光を原稿に照射し、反射光をミラー1602、1603で受け、受光素子まで光路1604を経る。一般的にはコンタクトガラスがあり、その上に原稿を載せ、ランプを走行させる。図の1605の部分がコンタクトガラス面で、原稿を置く場所になる。コンタクトガラス1605の左端（スキナナ走行体のホームポジション側）に基準白板1606が存在し、コンタクトガラス1605の裏面に貼り付けられている。その隅の黒い巻りつぶされた領域1607の下がスキナナのホームポジションになる。

【0068】シートスルーフ・DFの場合、原稿を移動させて画像を読み取る。ランプ（キャリッジ）1601はホームポジションから左側の原稿読み取り位置へ移動し、原稿を読み取るまでは停止したままランプ1601だけが点灯する。原稿は図の1608の部分から搬送され、背景板1609の下を通じて、曲面の形状に沿って1610から排出される。搬送原稿は背景板1609でガラス面上に押さえ付けられる。

【0069】原稿の読み取り手順を示す。迂板を使用して原稿を固定する場合、ホームポジションに待機している前記ランプ1601及びミラー1602、1603を搭載したキャリッジが、原稿読み取り開始とともに右方向に移動する。移動速度は拡大時は遅く、縮小時は速くなる。基準白板1606の下を通過する時、複数ラインにわたって白板画像を読み取り、シェーディングデータを生成する。その後、コンタクトガラス1605の上の原稿を読み取った後、格納されているシェーディングデータを基に、読み取り系のムラを補正する。

【0070】キャリッジのホームポジションから右方向への直線移動で画像読み取りを完結するので、1ジョブ毎にシェーディング生成、シェーディング補正ができる。

【0071】SDFの場合、ホームポジションから左方向へキャリッジを移動し、走行体は停止しランプ1601は点灯させたままとする。背景板1609に取り付け

てある基準白板1611を複数ラインに相当する時間読み取り、シェーディングデータを生成する。原稿の搬送を行なう前に再度コンタクトガラス面を読み取り、ゴミ画像を検出する。背景板1609に対して暗い画像を検出対象とする。欠陥画素の位置情報をラインメモリ1307に格納し、シート搬入側1608から原稿を搬送し、画像を読み取る。読み取り画像に対しシェーディング補正、黒スジ補正を実施する（1305、1308）。また、シェーディング補正及び黒スジ補正を行った後、スキナナ補正1309を行い、さらに、平滑化処理1310を実行する。

【0072】キャリッジはシート搬入側1608にセッ

トされた原稿枚数が終了するまでホームポジションに戻る必要はなく、原稿一枚毎にシェーディング生成、シェーディング補正、黒スジ補正を実施する。

【0073】

【発明の効果】これまでの説明で明らかのように、本発明によれば以下の効果を有する。

【0074】請求項1記載の発明によれば、シートスルーフ・ドキュメント・フィーダを使用した第1の読み取りモードと迂板を使用した第2の読み取りモードとでそれぞれ読み取り補正の最適化を独立して行う画像処理手段を備えているので、階調性及び低濃度再現性を低コストの装置で実現し、読み取り装置の構造の違いを吸収することができる。また、コピーの出力画像も、FAXの2倍画質でも最高再現可能な画像処理装置を提供することができる。

【0075】請求項2記載の発明によれば、画像処理手段が、第1の読み取りモードと第2の読み取りモードとによって読み取り位置を切り替える読み取り位置切り替え手段と、前記2つのモードに応じて最適なシェーディング補正を行なわせる制御手段と、前記2つのモードに応じて黒スジ補正及び白スジ補正を切り換えてスジ補正を行なうスジ補正手段とを備えているので、読み取り画像の共通特性を保証することができる。

【0076】請求項3記載の発明によれば、前記2つのモードに応じてシェーディング補正データを切り替える手段と、前記2つのモードに応じてシェーディング生成間隔を切り替える手段と、前記2つのモードに応じてランプ点灯時間を制御する手段とを備えているので、シェーディングデータの生成方法を2つのモードに応じて切り替えることができる。

【0077】請求項4記載の発明によれば、第1の読み取りモードで原稿を読み取るとときにスジ補正を行う手段と、シェーディングデータ生成時に白スジ補正を行う手段と、白スジ検出のための設定値を前記2つのモードに応じて任意に設定する手段とを備えているので、モードの相違に依存する黒又は白スジ状の異常画像の発生を軽減させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態に係る画像処理装置の全体構成図を示すブロック図である。

【図2】本実施形態に係る画像形成装置の濃度変換特性を示す図で、(a)はスキャナーフラップ正の変換テーブルを、(b)は濃度正の変換テーブルを示す。

【図3】本実施形態における温度変更を実施するための変換テーブルをダウンロードしたRAMへのCPUからのアクセス及びテーブル参照の切り替えの機能構成を示すブロック図である。

【図4】本実施形態における2値化処理における固定値

【図5】本実施形態における温度補正部及び階調処理部の機能構成を示すブロック図である。

【図6】本実施形態における2値用ディザマトリクスの構成を示す図である。

【図7】本実施形態における多機能ディザマトリクスの構成を示す図である。

【図8】本実施形態における2値及び多値誤差拡散処理の加理構成を示す図である。

【図9】本実施形態における空間フィルタ処理部の概要を示す図である。

【図10】本実施形態における閾値設定部における閾値セットの概要を示す図である。

【図11】本実施形態における孤立点検出の概要を示す図である。

【図12】本実施形態における孤立点の補正処理の機能構成を示す図である。

請點選下方的連結。

【図13】本実施形態におけるスキャナの画像補正の機能構成を示す図である。

【図14】本実施形態における画像処理装置における黒／白黙写用表の抽出方法を示す図である。

【図15】本実施形態における画像処理装置における黒

【図16】本実施形態における画像処理装置におけるS

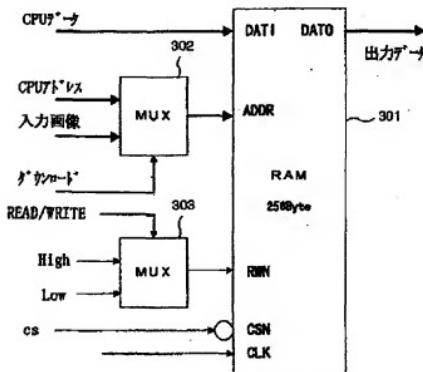
JTF／庄板の構

- 「符号の説明」

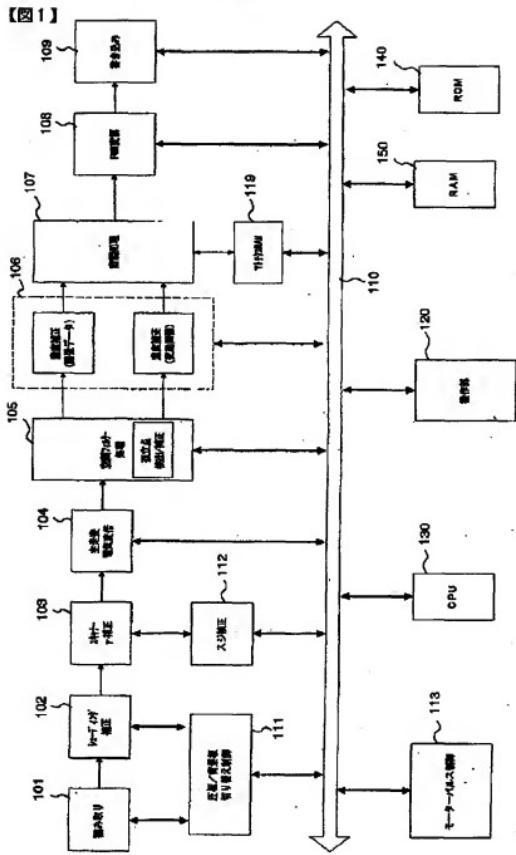
  - 101 読み取り部
  - 102, 1305 シェーディング補正部
  - 103, 1309 スキャナ補正部
  - 104 主走査電圧変倍部
  - 105 空間フィルタ処理部
  - 106 温度補正部
  - 107 階調処理部
  - 108 PWM変調部
  - 109 書き込み部
  - 110 マトリックスRAM
  - 111 庄板・背景板切り替え制御部
  - 112 スジ補正部
  - 113 モータバス制御部
  - 1301 シューディング用白基準データ生成部
  - 1303 白ジグザグ部
  - 1304 白スジ補正部
  - 1306 黒スジ検出部
  - 1307 黒ジグザグ部

(3)

[图3]

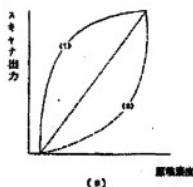


### 【圖 1】

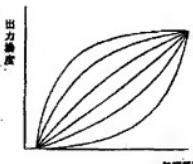


【図2】

【図2】



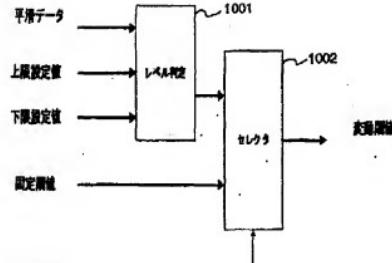
(a)



(b)

【図10】

【図10】

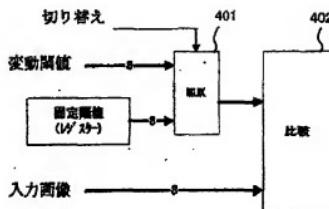


選択階級

処理番号

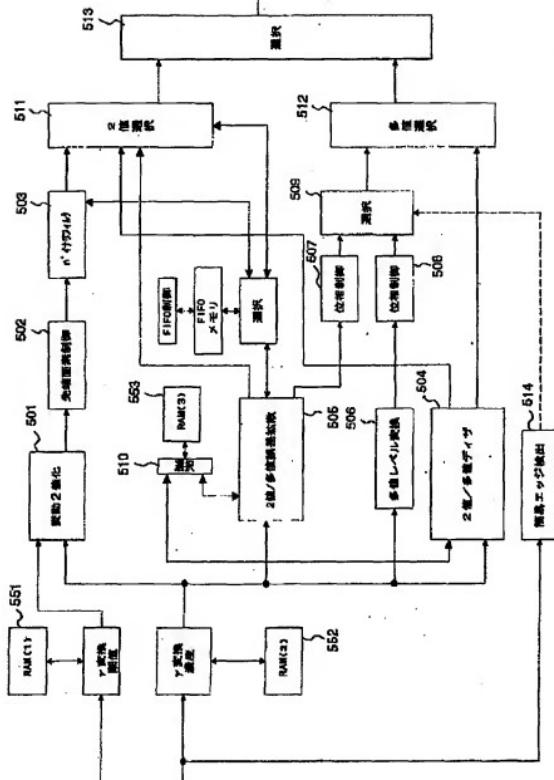
【図4】

【図4】



【図5】

【図5】



【四六】

### 【图6】

[図7]

【図7】

開示範本					
1	2	(C51' 20)			
2	1	(C51' 20)			
分割技術					
A	B	C	D		
E	F	G	H		
I	J	K	L		
M	N	O	P		

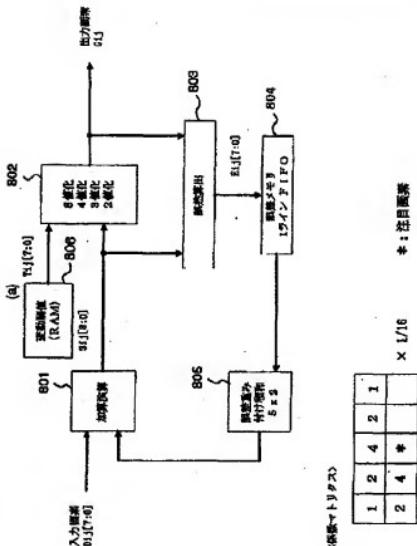
開示範本					
1	2	(C51' 20)			
2	1	(C51' 20)			
分割技術					
aa	ab	ac	ad	ae	af
ba	bb	bc	bd	be	bf
ca	cb	cc	cd	ce	cf
da	db	dc	dd	de	df
ea	eb	ec	ed	ee	ef
fa	fb	fc	fd	fe	ff
ga	gb	gc	gd	ge	gf
ha	hb	hc	hd	he	hf

開示範本					
1	2	(C51' 20)			
2	1	(C51' 20)			
分割技術					
aa	ab	ac	ad	ae	af
ba	bb	bc	bd	be	bf
ca	cb	cc	cd	ce	cf
da	db	dc	dd	de	df
ea	eb	ec	ed	ee	ef
fa	fb	fc	fd	fe	ff

開示範本					
1	2	(C51' 20)			
2	1	(C51' 20)			
分割技術					
aa	ab	ac	ad	ae	af
ba	bb	bc	bd	be	bf
ca	cb	cc	cd	ce	cf
da	db	dc	dd	de	df
ea	eb	ec	ed	ee	ef
fa	fb	fc	fd	fe	ff

【図8】

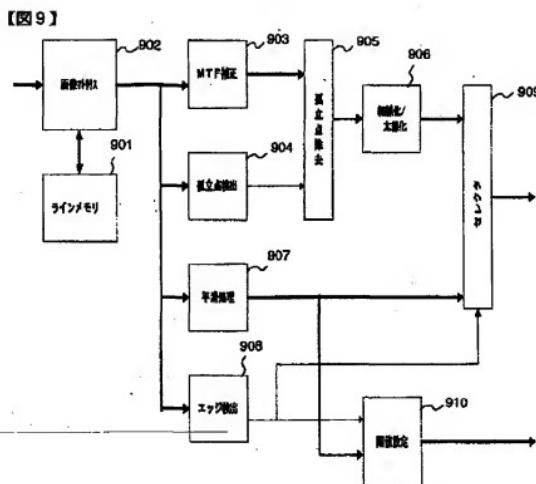
【図8】



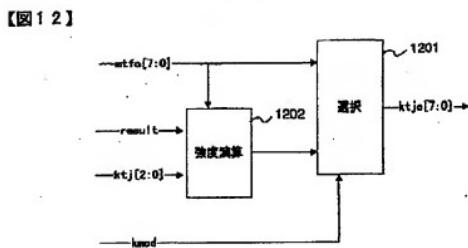
122	123	127	144	142	118	102	108
126	112	098	108	124	124	108	100
140	116	109	104	120	120	120	146
125	122	159	148	127	115	107	109
121	141	165	147	144	117	101	105
139	116	099	111	127	143	137	149
143	115	103	107	123	130	136	146
128	136	159	161	129	144	109	110

1	2	4	2	1
2	4	*		× 1/16

【図9】

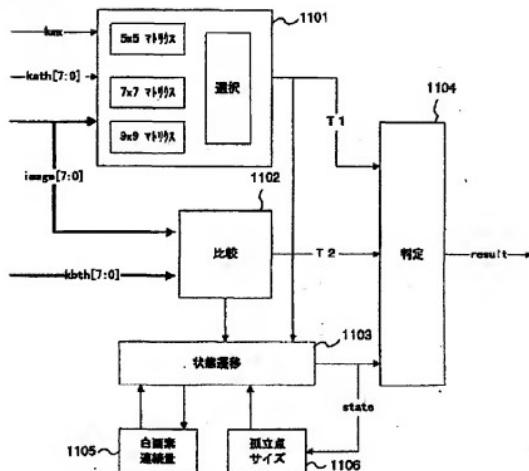


【図12】



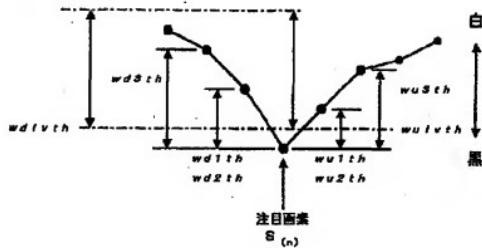
【図11】

【図11】



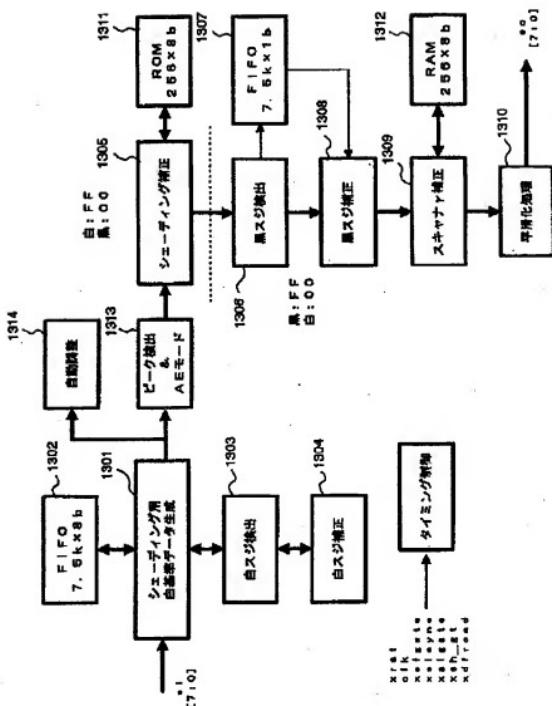
【図14】

【図14】



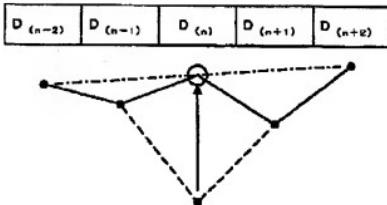
【図13】

【図13】



【図16】

【図15】



【図16】

【図16】

